

「時代の先を読む眼」を さらに研ぎ澄まし 北海道観光の魅力を高める



株式会社 アンビックス
代表取締役

マエ カワ ジ ロウ

前川 二郎氏

〈プロフィール〉

昭和20年、中国・ハルビン生まれ、当別町育ち。東洋大学社会学部を卒業後、札幌の不動産会社に入社。昭和51年に会社が倒産し、翌年に(株)日動を創業。平成3年、(株)アンビックスを設立し、ホテル業に進出。現在は業務受託運営、コンサルティングの分野でも手腕を発揮する。

アジアのリピーター観光客の増加と、ライフスタイル・ツーリズム商品の開発に積極的に取り組む

小樽朝里クラッセホテル、札幌クラッセホテルなど、道内各地でホテルを運営する(株)アンビックスは、この八月より、アジアの個人旅行者の取り込みを本格化する。香港、シンガポール、マレーシアを対象に、現地の旅行者と提携し、レンタカーで道内を巡る旅行プランを販売。札幌やニセコ、旭山動物園など、外国人客にも名の知れた観光地だけでなく、東神楽町や新ひだか町など、同社の温泉ホテルがあるローカル観光地を組み込んでいるのが特徴である。

「この三カ国は、右ハンドルの自動車が主流なので、現地で手続きを済ませば国際運転免許証を取得して日本でも運転できるため、対象となりました。北海道を一度なり訪れた経験のある人が多く、あまり知られていないローカルな観光地を求めるニーズがあります」と話す前川社長。

「これからの北海道観光は、『国際化』と『滞在型』への対応が重要になると考えています。観光業に限らず、現在の国内マーケットではほとんど

北海道が大好きだから、皆さんに実感して大好きになっただけじゃない

の業種が弱含みとなっています。企業のトップには、時代の先を読む眼がますます求められていると感じています」。

また小樽朝里クラッセホテルでは、「健身コンシェルジュ」と呼ぶ健康相談員を置き、宿泊客や日帰り入浴客



小樽朝里クラッセホテル

向けに健康相談・指導を有料で行うサービスを今年より開始した。自律神経チェックや血管年齢測定などのデータに基づき、健身コンシェルジュが入浴方法から食事、運動、睡眠など館内での過ごし方を説明するとともに、日常生活における健康管理方法を丁寧にアドバイスしている。

「このサービス導入には、東日本大震災を契機に、日常生活自体を見直すとする意識が高まってきた背景があります。余暇を楽しみながら自分本来の健康を再発見する、ライフスタイル・ツーリズム商品としてご提案し、多くのお客様よりご好評をいただいています」。

ゼロから蓄積した成功ノウハウを道内各地の施設運営に活かす

前川社長が「時代の先を読む眼」にこだわり始めたのは、大学時代の就職活動にさかのぼる。

「大学を出て不動産会社に入社し

たのが昭和四十三年でした。これからは建設・不動産の時代だと確信して就職活動をしていました。入社した会社は不運にも倒産しましたが、結果的には日動を創業し、その多角化でホテル・レジャー業への参入を果たせました。平成三年にアンビックスを設立する際には、週休二日制が定着し始め、余暇事業が伸びる時代の流れを強く感じました」。

同年に開業した小樽朝里クラッセホテルは、プールやフィットネスクラブを備えたリゾートホテルとして、二十年以上を経た今なお高い稼働率を誇っている。「お客様に心温まるサービスを届けよう」をモットーに、笑顔プラス会話のできる人材育成にも注力しました。道内観光のイメージは、自然一流、サービス三流と揶揄されていた時代ですので、お客様の目線でサービスの向上には特に気を配りました」と前川社長。同時代にリゾート開発を手がけた企業の多くが破綻する中、堅調な成長を続ける同社の運営手腕は多くの関心を集め、公共宿泊施設などを手がける自治体などからの相談が次第に増えていった。

平成十年、ホテル運営などの業務受託やコンサルティング事業を開始。

平成十二年に開業した、「森のゆホテル花神楽」をはじめ、現在まで多くの施設開業、運営に携わってきた。

「私は北海道が大好きです。この素晴らしい北海道を観光で実感して、皆さんにも大好きになっていただきたいと思います。観光地としての人気が高まることは、住みたいと思う人が増えることにもなります。それは地域の活性化にもつながります。今後十年から二十年は、北海道が観光地としての魅力を国内外にさらにアピールする大切な時期だと思います。時代が北海道を求め、そうなることを確信していますし、そのためにもさらなる企業努力を重ねてまいりたいと考えます」。

Information



株式会社 アンビックス

住 札幌市中央区
南1条西7丁目1-2
TEL 011-252-3800
WEB <http://3800.biz/>

◀札幌クラッセホテル